

中学生は高校進学のため高校入試を経験する。誰もが志望校合格を目標にして受験勉強に励むが、思うようにはいかず、合格することができない人はたくさんいる。どうすれば第一志望の高校に合格することができるのか。そこで、この小論文では、中学生である私の弟が第一志望の東筑高校に合格するために、私が弟にできる最大限のサポートとは何なのかを明らかにすることを目的とした。

私の弟は今年の4月に中学校に入学したばかりの1年生だ。新しい友達もたくさんでき、野球部にも入部して、とても充実した中学校生活を送っている。また、東筑高校が夏の甲子園に出場した（平成29年）ことをきっかけに弟は「東筑に行きたい」という発言をしており、高校や将来のことに対して興味を持っているように見える。目標を持つことによって、勉強面においても意欲がわいており、私に質問をするようにもなった。ところが、授業や部活で疲れて帰ってきた弟は、予習や復習をしない状態で朝を迎えていることも多くなってきている。言動に対して全く行動が伴っていないのが現状であるため、私がそのような弟をサポートすることが出来れば弟の志望校合格も夢ではないと考えた。そこで、弟に対してどのようなサポートが必要なのかについて、二つの観点から考えた。

一つ目は、高校受験のプロに話を聞くことである。そこで私は高校受験でお世話になった塾講師の西山先生に質問することにした。その結果、西山先生から次のことを教わった。結果に関わらず励まし褒めることが大切であることと、次のテストに向けて明確な目標設定を一緒に考えてあげることが重要であることである。その他にも課題の出し方など実践的な手法を多く教わることができた。私は、西山先生のアドバイスを基に初めての定期考査である1学期の中間考査の勉強に協力することになった。弟が前日一緒に勉強した内容を覚えていたら褒め、今日も頑張ろうねと励まし、それを考査2週間前から繰り返した。また、私が受験した考査問題を解かせたり、試験範囲の単元のポイントを教えたりした。すると、中間考査の結果は学年9位であった。見事に結果を残せたのである。

二つ目は、勉強に対する動機付けを行うためにどのような接し方をすればよいかということについてである。そこで、『ベネッセ教育総合研究所、小・中学生の学びに関する調査報告書2015』を熟読し、次に述べられている部分に着目した。「学習とはとにかく、長い時間勉強することである」といった非認知主義的な学習観を持っている保護者は、子供に対して叱責や報酬によって外的に動機付けようとしたり、たくさんの問題を解かせたりして、統制的に働きかけていこうとする傾向がある。また、「なぜ」「どうして」を考えながら学習を進めることを重視している認知主義的な学習観を持った保護者は、子どもの学習をサポートしていくにあたって、学習の意義や興味を重視した自律的動機付けを促す関わりを試みている。このことから、保護者の学習観のあり方によって子どもの動機付けが限定されている可能性があることが示唆されている。また、「内発的動機付け」が高く、「外的動機付け」が低い自律的動機付けタイプの中学生の成績が最も良いという結果が得られていることも分かった。以上のことを踏まえて、「自分に合った勉強法を考える」「難しい問題をじっくり考える」「問題の解き方を何通りも考える」「間違えた問題を振り返り次の学習に活かす」などの認知主義的な学習観を私自身が取り入れようと努力することで、弟の勉強に対する動機付けが、興味関心を持ち、楽しさや好奇心が湧き上がるような内発的動機によって生み出されるようになると、3年後、弟は東筑高校に合格するのではないかと考えている。

以上のことから、弟が第一志望である東筑高校に合格するために、私が弟にできることは何かという問いに対し研究を行った。その結果、弟を励まし、頑張ったことをしっかりと褒め、次の目標や課題を設定し、一緒に頑張っていくことが弟の成績を上げるための第一歩であることが分かった。また、私が認知主義的な学習観を自分の中に取り入れることで、弟の勉強に対する動機が内発的なものになり、前向きに勉強に取り組みやすくなることも明らかとなった。よって、これからも継続的に弟への受験指導を行うことで、最終的に弟を東筑高校合格へ

と導けることを確信している。